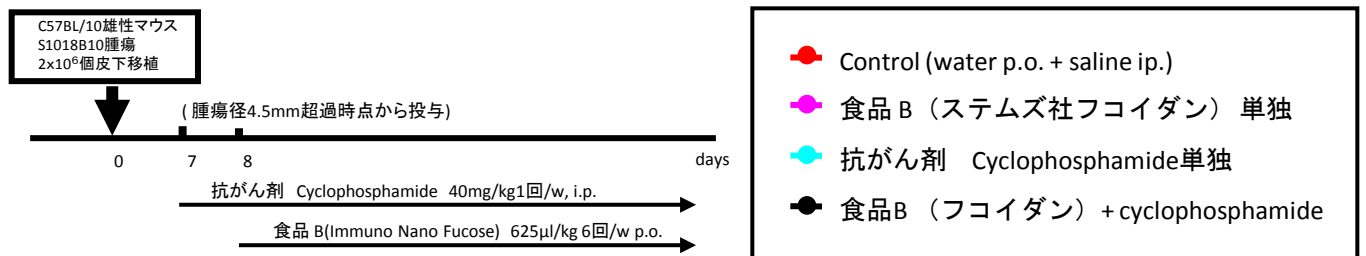
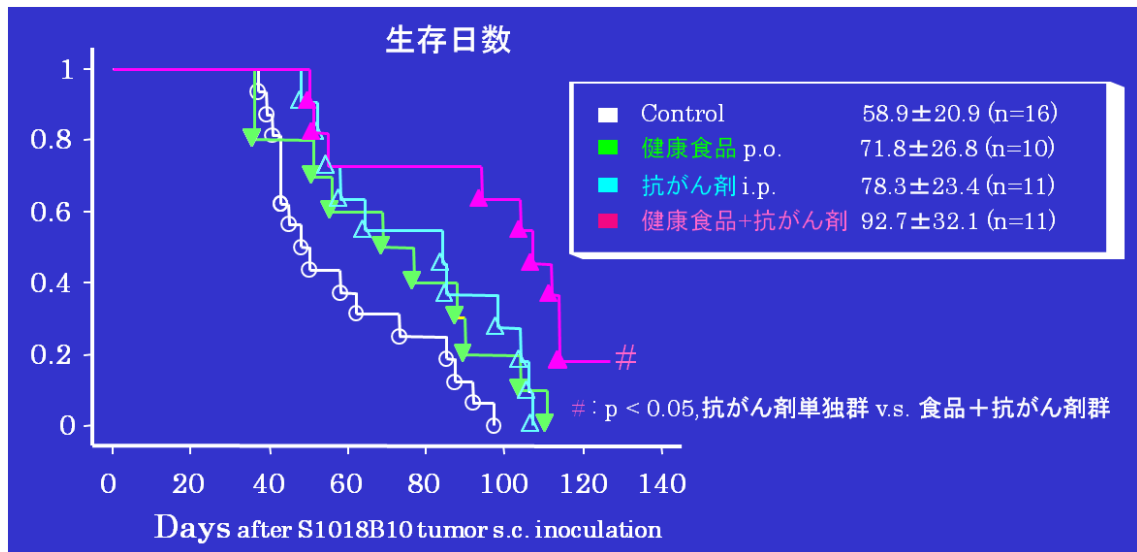


Immuno Nano Fucose (フコイダン)エビデンス レポート

健康食品の抗腫瘍効果の妥当性を検証する動物試験系の評価として
下記の4群で延命効果を検証しました。

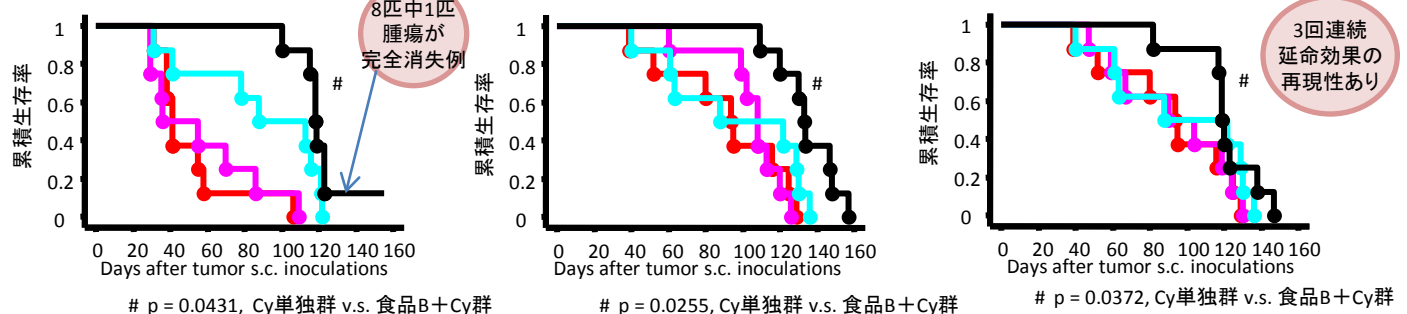
近畿大学腫瘍免疫等研究 調べ



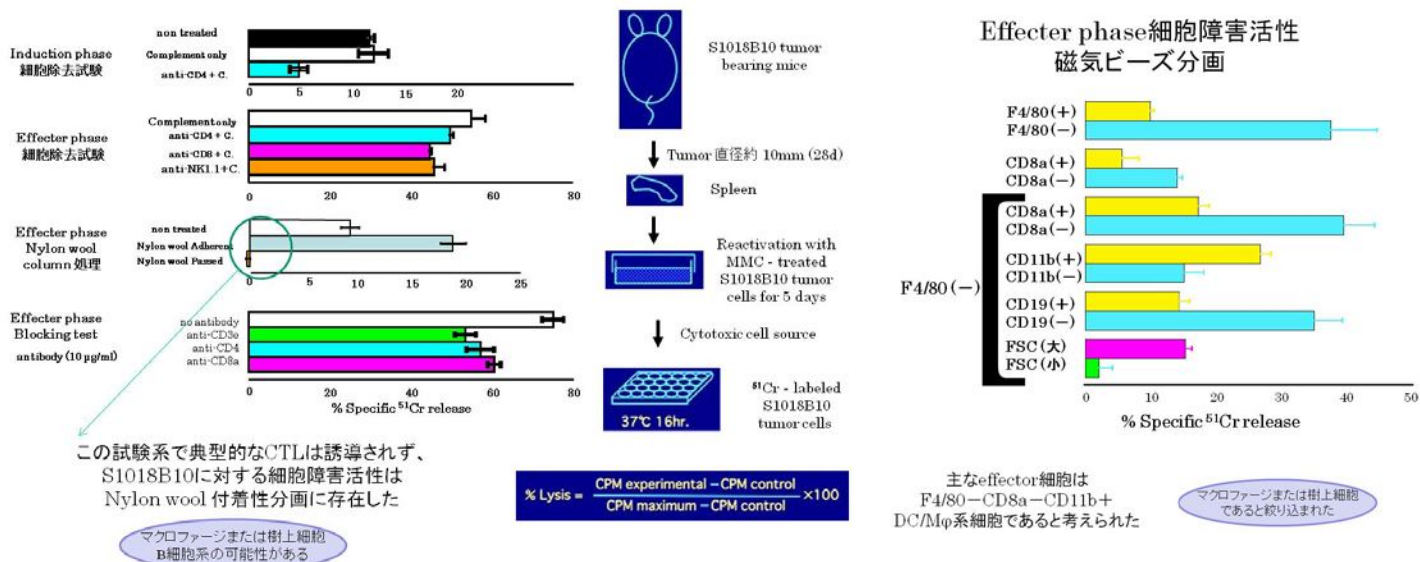
食品 B 1回目試験(n=8)

食品 B 2回目試験(n=8)

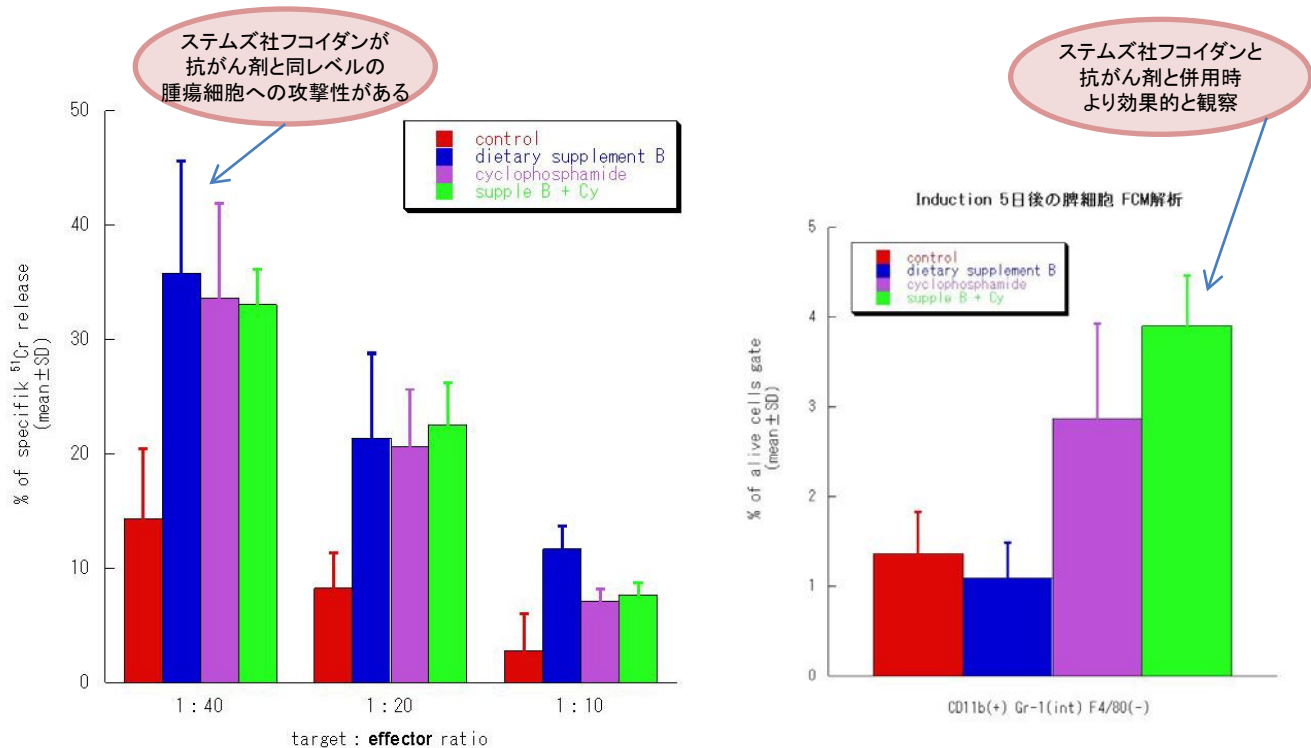
食品 B 3回目試験(n=8)



近畿大学腫瘍免疫等研究所にて健康食品の機能性を評価する動物試験系として、①コントロール ②フコイダン単独 ③抗がん剤単独(低用量) ④フコイダン+抗がん剤(低用量)の4群をマウスを用いて評価試験した。
結果として④フコイダン+抗がん剤(低用量)において優位に延命が観察された。合計3回試験を実施し再現性があり、優位性が観察された。1回目の試験では8匹中1匹で完全消失が確認された。



前頁の試験で用いたラットの脾臓から免疫のどこに作用するか検証したところ、マクロファージ又は樹上細胞に関与することが絞り込まれた。



食品Bを経口投与しても、cyclophosphamideを腹腔投与しても腫瘍に対する細胞障害活性が上昇した

脾細胞 induction後 CD11b+Gr-1^{int}F4/80-細胞はcyclophosphamide腹腔投与で増加し食品B+Cy併用投与でさらに増加した

癌細胞が十分に成長してから経口投与する後投与で再現性が確認できたことはユニークである。今後癌細胞を植え付ける前に経口投与する前投与によりどこまでの効果があるか検証する予定です。